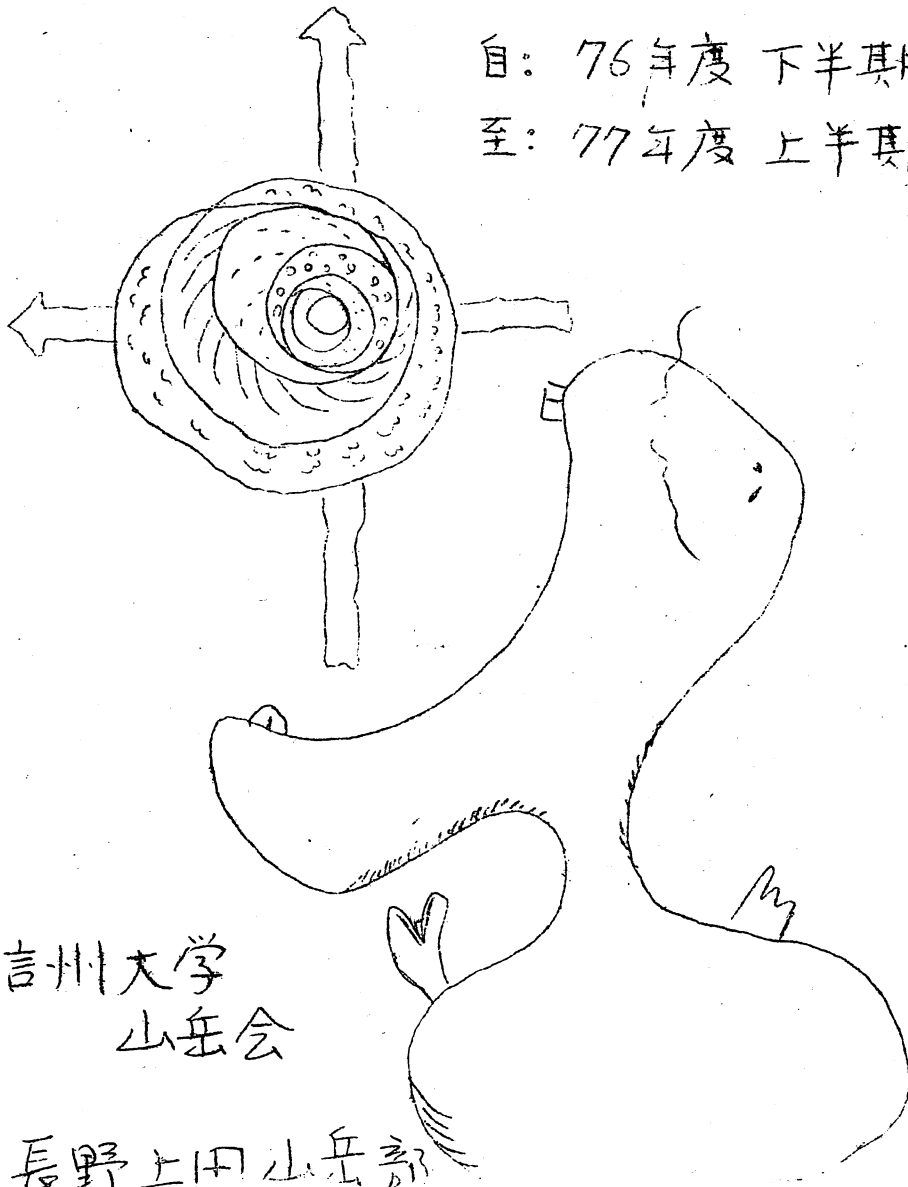


# SUNAC

自: 76年度 下半期

至: 77年度 上半期



信州大学  
山岳会

長野上田山岳部

● 報告書を出すにあたって

山本章

● 実に一年ぶりの報告書である。無論二月で何度か出そう  
と努めて来た。しかし、松本、長野、上田という地理的な問題  
や、何やかやで結局一年のびのびにたいてしまったのである。  
そして最大の原因(主たる)は部員全体のやる気のなさが  
ある。山は登っているものの、その報告書に感しては、実に考え  
が甘く、どうでも良いといった考えがはびこっている。  
しかも、その内容ときたらまるで小学校か何かの  
学級新聞の様だ。どうでも良いような事ばかりである。  
はたして何の為に報告書を出すかあかっているのだろうか?  
僕たちは報告書を読んで、遊ばせりし昔の山行をなつかしく  
思いはたしている(多少はそういう気持ちもあるがそれだけ)  
記録は、帰還の後で入って来る部員に対する、先輩からの  
"おくりもの" なのだ。おさえるべき所はちゃんとおさえて  
(岩なすルト図や時間など)書き、後から入る人達の土台と  
ならなければならぬ。今度の報告書にも遊んで書いた  
様なものが多々あるが、-----  
全員が報告書についての認識を新たに、反省して  
これからの山行をおこなってほしい。  
そして、もと実のある報告書を出してほしい。

# フシ冬山合宿 55.12.2~12.5

メンバー CL 山本章(E2-II) SL 土田章(F3-II)  
準備 藤田由則(T2-II) 竹内秀実(T1-I)  
ESSEN 中嶋岳志(E2-II) 会計 塚外 梶野 賢田 俊晴(F2-II)  
黒幕 実和正彦(T4-IV) 川 頼 亨(T4-IV)

## 行動記録

12月2日①

実和 土田とのぞく6名で入山する。松本から国鉄で茅野まで行き  
茅野から美濃戸口行のバスに乗りに、バス窓から見える八岳は異々  
として雪が非常に多くなり、とをわけていり、バスは雪がたまりは  
知っていたが、たむたむと行くと、美濃戸口からは、10分ほどは車道  
を歩き、登山道は、雪の道におき、つらあつらである。竹内は  
10分ほど歩いて雪止まりの多量な雪が、それでも100m位を歩いて、  
竹内が途中でバスだったので、長時間がたがたが、つらあつらで、行路  
につら、小屋の横に、エスパーを張った。

12月3日②

今日は体調は、快で、この山での、あつた様な、青い空、かいて、この山  
の、たつた、冬山、いっ感じか、しない。今日は、全量で、向山、往の  
北麓から、赤岳、主峰と、登山、行く、北(川)中岳、沢の下流の、沢を、適当  
登り、赤の、杉林、帯を、た、た、直、直、登、り、行く、と、中岳、への、この、見、わ  
れ、トースト、に、ふ、つ、か、る、トースト、を、打、た、し、な、ら、登、り、北、麓、へ、出、る。  
ラ、セル、は、な、い、か、い、か、トースト、を、登、り、は、トースト、になる。は、い、く  
ア、の、出、た、4、つ、の、尾、根、を、登、り、した、ら、北、麓、が、急、に、岩、場、の、下  
出、る、こ、の、川、を、頼、り、頼、り、中、岳、へ、登、り、ア、ク、ス、を、登、り、1、つ、は、左、の  
山、向、か、ら、平、川、つ、ま、岩、場、へ、出、る、2、つ、は、岩、場、で、し、ら、も、簡、単、に、登、り、  
赤、岳、を、登、り、た、ら、南、麓、赤、岳、も、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、  
食、べ、い、休、ま、い、て、ま、ち、(お、ま、か、り)の、湯、水、が、使、い、ま、す、こ、の、が、フ、シ、冬、山、か、  
た、か、り、た、く、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、  
と、は、打、た、た、た、た、た、中、岳、と、赤、岳、の、2、つ、か、ら、主、峰、を、目、指、て、左、へ、ト、ア、ス、打、  
こ、の、あ、た、り、は、雪、が、少、く、が、ら、が、う、で、登、り、い、か、ア、セ、の、ト、ア、ス、に

はな。右にせと横出し雪のつたふこーがさよ中絶して至終の  
取れく上からサバで夫らに後続となり入るに上り部は雪の中場  
で、雪のサバと適宜にフラスは行くにサバはサバでさよの取れ  
とフラスであつた。赤岳山頂に全負載をいし奥の山に至終線から赤  
尾根と下降す。地蔵尾根にはクサノ場が何ヶ所があつた。クサノ  
もほじりたくりてあつた。BCに付ては土田氏が入つていた。

12月4日○

早朝から赤岳鉱山のオハカンとトウワリがあり、赤と移動した  
片方、200mほど下つた道のそばに設営しあつた。日付土田氏のかえ  
た7名で鉱山にせへ行く。中絶時をこえて、柳川北沢とツル川に  
はいる。北の山尾根にせが右から落ちてきて、山の中は雪が  
交りあつた。川にせになり、川にせは10mほどの流があらわ  
れ、柳川が右から落ちてきて、赤の山にせは10mほどの流があらわ  
れ、さらに50mほど上流には10mの水溜りがあり、下で7名のトウワ  
リと上は雪壁にたつて、トウワリ（しり）にたつて、柳川の上で雪壁の  
上はフラスし、山にせは右から落ちてきて、赤の上で7名の  
カフし20mほど水溜りした。右からせが水溜りが落ちてきて、  
下で7名のカフし、フラスの直登の細道としてから下降す。水  
溜り。アツケに2回を繰り返して下降し、柳川北沢にたつて、  
BCに付ては土田氏が入つた。土田氏はゴッパ天から持越  
と回して降つた。オハカンの下をさし入るも、夕飯は急遽のゆた。

12月5日①

BCから荷物と全部持て、赤にせは下つた。赤あつた。赤あつた。赤  
この日は摩利支天天と思つた。カフシの直登の山に水溜り  
100m以上もつた。集はやく、赤の竹内にアツケの指導として  
から下山の途につく。妻農戸がさよのクサノハスで、富士見田に下り  
止行して、日と赤は、天気はよく、赤夫、山行は珍しい。さよ、さよ、冬  
合宿のことと、赤は、不安にならざるを得ない。そんなつた。冬山夫。

1976年度 冬山合宿

<唐沢岳、東尾根～餓死岳>

<12月25日～12月30日>

Leader 宅和正彦(工Ⅲ) 川瀬亨(工Ⅲ)

山本章(教Ⅲ) 土田章(織Ⅲ)

瀬戸由則(工Ⅱ) 中嶋岳志(教Ⅱ)

箕田俊晴(織Ⅱ) 竹内秀実(工Ⅰ)

~~XXXXXXXXXX~~ (冬山合宿の反省) 山本

唐沢岳、東尾根から槍までというのが当初の計画であったが、竹内内の凍傷という事故で途中下山となってしまった。

昨年の冬山が非常に好天に恵まれ、まったく厳しさのない冬山となった上に、また今度の途中下山、と、ここ2年間、あまり爽やかな冬山となっていない。

東尾根自体は適度な厳しさがあり、又人気のない道も手伝ってなかなか良かったが、たったの6日間という短かさは今後には多大な不安を感じさせる。

又今回は軽量化、スピークマップという考えで計画されたのだが、一応それは成功したように思う。

(しかし全員の力を考え、又合宿というものを良く考えて見るなら)

これは計画からまちがっていた様に思う。もっと基本的な生活技術

ラッセルなど目に見えて下級生に上級生が目が届かず、津島局

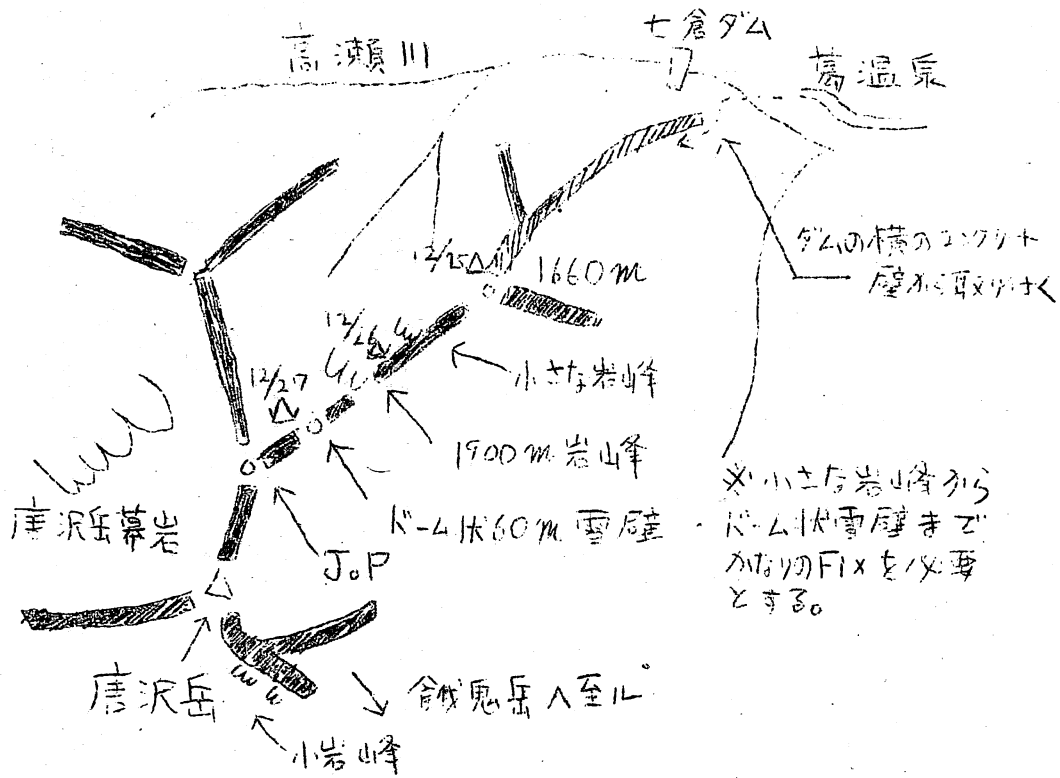
竹内内の凍傷もまねいたのでないだろうか。

なにもあれ、この次の冬山はもうカンタンにはいかならう。

(今の部<sup>は</sup>の力では) 全員が次の冬山に向けてより一層の努力を

することを望む。

<唐沢岳東尾根 概念図>



◎ 唐沢岳東尾根について

小さなピークが多くあり、又ブッシュが多いので非常に時間がかかるといえる。又小さな岩場が所々ありフィックスもかなり必要である。1900m 岩山も岩がかなり出ているので荷が重いと苦労するだろう。又、自分たちがどこにいるのか確認しにくいので注意が必要。かなり残置フィックスがあり且力加たがなければもつと時間がかかる(当然だが) 雪は比較的少なくてラセルはさほどでもないので、なにしたブッシュがひどく大変である。ドーム状雪壁、及び唐沢岳からの下降もかなり悪く、一年生がいると苦労する。全体にスキリはしてはならないが、技術的にはかなり厳しい。

# 〈行動記録〉

12月25日 ⊗

松本 — 湯温泉(9:45) — 1660mP(16:20)

雪の降る中をマイクバスで湯温泉へ、ここは積雪20cm程度  
すぐワカンもツケバス停から即前にあるダム左手前の雪壁  
に取り付く。ここは下かゴゴノコトで非常に登りにくいが50m程  
で樹林帯に入る。後はまたすしやがにきとみざ程度の  
ラッセル。6ピッチを過ぎて1660mPに出る。ピーク上の切り開きに  
エスパーヌ及び軽カマゴ天を張る。雪がしめっぽく  
体中ぬれまわ(まう)。 (積雪 1m前後)

12月26日 ⊙ 強風

T.S(6:55) ————— 1900m 岩峰手前のコル(15:05)

深い樹林帯で同じ様な感じであり、どのくらい登って  
いるのが非常にわかりにくい。途中、小岩峰で4P. フックス  
する。倒木とその間についた雪で非常に時間がかり  
1900m 岩峰の手前のコルにテントを設営する

その後、山本 土田と上部を偵察に行くが深い樹木  
にさえぎられ、良くわかりません。テントにもどる。

夜半、強風でエスパーヌのフレームがおれる。

(積雪良くおろしがラッセル  
はみざ程度)

12月27日 ⊗ 風強し

T.S (7:30) — ドーム状雪壁<sup>上</sup> (15:00) → その上の小さなコル (15:30)

宅和、土田、中山島でフィックス工作、

T.Sから少し登ると岩壁左側のちぎれたルンゼで下に出る  
そこからフィックス。残置フィックスが所々あり利用できる。  
4P程、フィックスをして岩峰上に出る。工作帯以外の者は  
順次ツエルトをかぶって休みながら進む。上部は岩がかなり  
出ている。最後はリッジ状になって終る。

しばらく行くとドーム状雪壁に落ち、視界が悪く、宅和と判<sup>ら</sup>ぬ内  
に途中まで登って止めたので、吉木、山本が、残置フィックスを  
利用して上まで登り、宅和がもう一度ホリでシグナルとザイルを  
張る。この雪壁は非常に急で悪い。

ここでパーティの前後にかなりの差ができて悪天と共に不安になる。  
尾根はかなりやせこ果、シトワイヤがあるが不安だったのが、  
有人とかがみつけ、急いで張る。エスパーは予備の張網キイ使し、  
回りの立木に人じがらぬに張る。張網の方向を考えれば、  
それ程かん算にはフレームもおそれない様である。

12月28日 ⊗ → ⊙

T.S (7:40) → J.P (9:40) → 唐沢岳山頂 (10:45)

→ 餓鬼とのコル (13:00) → 餓鬼岳山頂 (17:25) → 餓鬼の小屋  
(18:10)

せり車登りは内部の“ぬれ”もひどく、早くもシラフはN4ぬれ  
である。さほどでもないラッセルをくりかえし、J.Pを越えてから1本、  
アゼンにはまかえる。唐沢岳を越えた頃より、天気もかなり良くなる。  
下口で一部岩が出たり1回、アザザイルをする。

(次の続く)



その後は餓鬼をぬぎして樹林帯をひたすら歩きを続ける。  
かなり時間がかり餓鬼に着くと負はうす暗くなっていたが  
天気も良く、八時にテントを張るより小屋まで行った方が良いと  
判断して、強引に小屋まで頑張る。小屋は山頂からすぐ  
下にある。普通は入木たけのがましくないが、一個所、入る所  
があり、やはりテントを張る気力もなく、竹内もどうとう  
バテているために入らせてくれた。

12月29日 ②~① (沈)

前夜竹内がかなりひどい凍傷になっているのを発見し  
上級生で話しあうが、一応様子を見ることにして  
今日は流展殿とする。久しぶりに良く晴れ、金剛すずりや燕  
が良く見える。

12月30日 ① 小屋(7:30)→林道(12:10)  
—信濃常盤駅(14:25)

竹内の凍傷がかなりひどく、これ以上の行動は無理  
と見て下山と決める。肉肉な事に今合宿では最高の  
良い天気である。いたんピークもどり東へのびる屋根  
を下る。日木のパーティが入って来ており、彼らのトレースと  
赤旗があるので、その通りに下る。最初のうちは歩きやす  
かった。この屋根も下に行くに従って雪がハリブツツが  
ひどくなって来た。小さなピークをいくつも越え、必死になって  
ヤブをこぎながら進む。5時間で林道に降り立ち、  
後は早く終わった嬉しさと、あまりに短かった事への不満  
を感じながら、それでも皆元気に常盤へ行き  
松本への電車にのり込む。(おわり。)

◎ 竹内の凍傷について。

銚子の小屋で打にはねあがり、うら血していた。又皮がやぶれそこから出血していた。本人の自覚症状は全然なく、歩くのも全く痛はなかったが、駅まで降り、そこで足を温めた所、痛みが出てきて、松本駅に着く頃は歩けた1程であった。決定的には第2度の凍傷で、以後3日までまったく山に行くことができなかった。

原因としては、氷生活に慣れた雪とりに行く時等に無神経に靴をぬらしてしまい、行舟の中も自覚症状がないので、まめにゆびを動かしたりするのを怠らした為であると思う。

銚子の小屋に着いた時には治療としては下した事はせずに早く降りて医者に見せるのが最も良いと思い、下山した。

この時に本巻等とどかしていたら、次の日には歩行困難になったと思<sup>わ</sup>れる。

上級生の注意が足りなかったのは無論だが、凍傷は最終的には本人の注意による以外予防は不可能であるので、これから山行には全員特にスックを出し自分の事は自分で注意して行かねばならない。

<終り>



泣いてもおそい!!

# 不帰定着合宿(湯入天谷BC)

代別は後立山不帰乗面から好尾根面2にあつて伊那本谷賣とあつた  
 名9名で5月24日27~5.7の7日間にあつて、2年生以上の生徒は雪上  
 歩行、登攀技術等の強化を目的とした合宿を行つた。以下はその記録録て  
 ある。

メンバー 尾山本谷、立田、野田、伊田、中嶋、竹ノ内、伊藤、上田、野田、伊藤  
 二俣、野田、下田、以上3名、伊那本谷賣

行動概程 4/29 入山  
 4/30 湯入天谷から好尾根、互峰尾根、好尾根の支尾根  
 5/1 不帰尾峰B尾根、互峰尾根、互峰映出、互峰尾根  
 5/2 滝  
 5/3 不帰乗面から、のつが千代  
 5/4 互峰尾根、互峰尾根、互峰A尾根  
 5/5 滝  
 5/6 互峰下部三角形岩壁、互峰尾根、互峰尾根  
 5/7 下山

## 行動記録

29日 ①→②→③→④

野田をのぞく多て入山、長野野谷から出発して、(湯3分)入つて白馬杖、行つた。  
 二俣をへて湯の入天谷、湯入天谷、湯入天谷、湯入天谷の雪の上にBCと設営する。  
 BCについでから雪が降出し、山の終りに帰る。

30日 ①→②

湯入天谷へ、(二俣、野田)  
 6:00 BC出発、湯入天谷をめぐり、大立山、湯入天谷は本谷賣まで来たが雪の  
 状態は悪く、山行不能になつてある。好尾根へ  
 途中には所々、雪が降出し、山行不能になつてある。好尾根へ  
 の午前で了せ、とつける。

11:15 杓行山頂 11:35

風が非常に強い。天気も悪化。好尾根の上は雪が降出し、  
 ともお困る。未だ出てくる。

12:50 天谷山荘

1:10 発

天谷山荘に寒いので、完全装備にする。

2:15 天狗のCOL着

2:30

不降天は昨日の雪でグリセード不可能  
バテバテで二俣へつく

4:30 BC着

○八万尾根パーティー L山本 土田 下田 中嶋 箕田 竹ノ内

6:00 BC発

南境の近くで雪上訓練

11:55 八万尾根 2361mへつぎ上げ尾根を登る

13:15 2150m付近

東側の沢へ下降途中 竹ノ内が50mほど  
滑落したが、丸バズバキアプで止り事無き  
えた。

15:35 BC着

OBの藤松氏入天 9名となる

5月1日 ○

OBの藤松氏を加えた9名全員で不降東面へ

○五峰B尾根パーティー L土田 箕田

5:30 BC発

9:00 取付着

9:15 登攀開始

つるべまで登るは、松の中へもぐりにて解力で登り  
所がはじめ2ヶ所と、8目にもあった。秋後妙ヶ岳バズ  
の部分が2ヶ所くらいあった。急傾斜の雪面や雪がツルべ  
あがした 10:00で終了

12:45 縦走路に出る 唐松沢を下降(グリセード)

15:45 BC着

○五峰尾根右枝パーティー 藤松(OB) 瀬戸

5:30 BC発

8:05 断壁とP1の2ル

8:40 取付

12:55 断壁終了

1P目 Top 先行パーティーのトースト作業

2P目 藤松ゴロで先行

3P目 セト 45度程度の雪壁、ここからゴロで断壁の取付へ

4P目 凹角下部は雪で濡れてハケへた大ツルべが  
かけられた。強引にハケをこして氷 岩後は  
こたけである

5P目 左へ5分トウバズバテゴロの中を直登

6P目 Top 藤松 60前後の雪へ

7P目 セト 壁と雪の間を3mほど 登り約20mのツルべ

8P目 藤松 雪壁づらぬき直登

9P目 セト 60度程度の雪壁を左上して断壁終了、こ  
より2分

14:30 五峰へ

10P目 セト ハケの中を直登(五峰への10m下の横線へ)

15:25 I山峰間の2ル出発、I山峰間ルセ下降

16:30 BC着

感想、雪の仕態が悪く、雪壁の登りがいやであった。あとは天気もよく  
気分も登攀できた。(中)

○中央リッジパーラー L中嶋 下田

5:30 BC着

8:00 中央リッジ取付 唐松沢から取付は第1岩峰の下でアザに打

1P目 Top(中) 第1岩峰 かりきみのリッジから凹角ブッシュへ

2P目 (下) ブッシュから第2岩峰の下のバンドへ 以後ついで登り

3P目 ブッシュのリッジから4mロープ、棒状でヒレ

4P目 ブッシュ

20mロープで第2岩峰へ

5P目 第2岩峰 リッジ状の岩を左にまわりこんで凹角が丸く  
棒状でついで

6P目 第2岩峰 バンドから雪稜、雪のハグとピククルと下げてこぼ

7P目 雪稜からブッシュ

8P目 ブッシュ ピククルへの登り

9P目 岩のリッジからブッシュ、雪稜

10P目 雪稜 ピククルへつく

11P目 ハイレフトをつかての下から雪壁のトラバーヌ

12P目 雪稜

13P目 ブッシュ

14P目 雪へつくブッシュのスコットと登り 中央リッジ終了

X山峰ルセ(北峰ルセ)と登り途中から右の雪壁へかり三角岩壁の  
上の雪稜へ向けてロープ

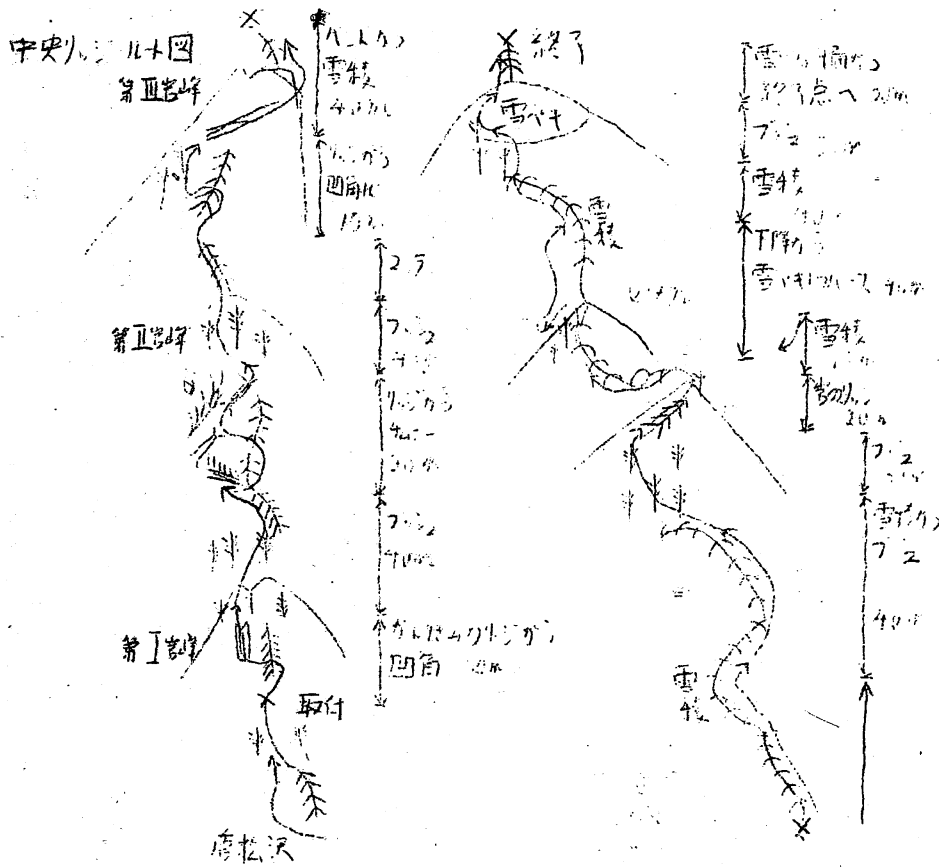
2:30 北峰ルセ  
15P目 雪稜とスコット 北峰へ出る。  
16P目

I山峰根パーラーと輪合流して下降

4:30 BC着

○※X山峰ルセはロープワークに慣れておらず、トハは危険。  
我々の途中から右へ下がった。

感想 もう2層と行たくない (中嶋)  
疲れたへ! (下田)



・I峰南ルートバーレー L山本二俣 竹内

奥の二俣手前の八尾根の斜面で約1時間雪上訓練を打。唐松沢を登りI峰間川せをつめて、I峰尾根へ出陣せいでコンテの練習、稜線に出てI峰尾根上部のルジをコンテ。雪の垂壁は何ヶ所かありてする。しばらくしてブルは松の斜面をたじのほり、ピークの10mほど下に出る。コルからI峰間川せをシヤードで下ル (竹内)

5月2日 夜半からの雨がいつに弱まず沈。OBの藤松代下山、~~採り~~  
 ● ~~白田代~~。夕食のテンテラは、大成新カ

5月3日 行重予定では全員で不降東面を登るはずだったが奥の二俣の先で  
 ◎行て、風強くガスがかがてきたので、いつもの斜面で雪上訓練を打。  
 ◎BCにもしてガス快晴になが、そのまま半沈となった。夕になてから  
 白田代入山

5月4日◎

全費で不帰東面へ行く

○I峰尾根右稜パーティー L 新田 中馬

8:5:30 BC発 奥の二俣から断壁の2ヶ所、四角の下でローザイル

8:25 断壁取付 断壁3ヶ所、ベーク直下でベグスアホ、人たちはトースカあり

10:40 I峰ベーク 歩いてかける。

ここで甲南川トパーティーと合流、いつもの所で雪上訓練して

11:45 BC着

感想 あんなに人がき (新田)

たしこま (中馬)

○I峰甲南川トパーティー L 土田 箕田 竹内

5:30 BC発 彦根沢からI峰間ルンセを登り甲南川にせの取付に到着

這雪の多めにおとろく、箕田 竹内 土田の順で登る。落るのコースとなげくさけたが、氷で滑り音防の下とトウパーン持て危険地帯にはいるのでいそいそとところが竹内はこぼは

の落ると左足の甲に受けてしまった。ルンセを登り始めた2人で

ふり向いたらおとろくおとろし! ルンセに掛かるとスリッパが

ついているので、相対恐怖感がながた。さし200m位登った所

では雪ごとごそりくすれ落ちそうなお目が出た。おそ

おそ静かに通る。あとで土田さんが言にはそが一番におお

僕はそれより甲南川にせの方がやはりおお、たのです (竹内)

10:30 I峰ベーク

ここでI峰尾根パーティーと合流してI峰間ルンセ下降

11:45 BC着

○I峰A尾根パーティー L 土田 二俣 下田

5:30 BC発

9:30 取付 / 1P目 Top (山) 氷が付着したり、深い雪付を落とすために登る

2P目 Top (山) フルに付く雪をぶらおきから四角ホールにたたくアゴで使用

私ニーの出口はかぶっていて強引に乗り越す。

30m コンテ

3P目 Top ( ) アセンがかめてスリッパ

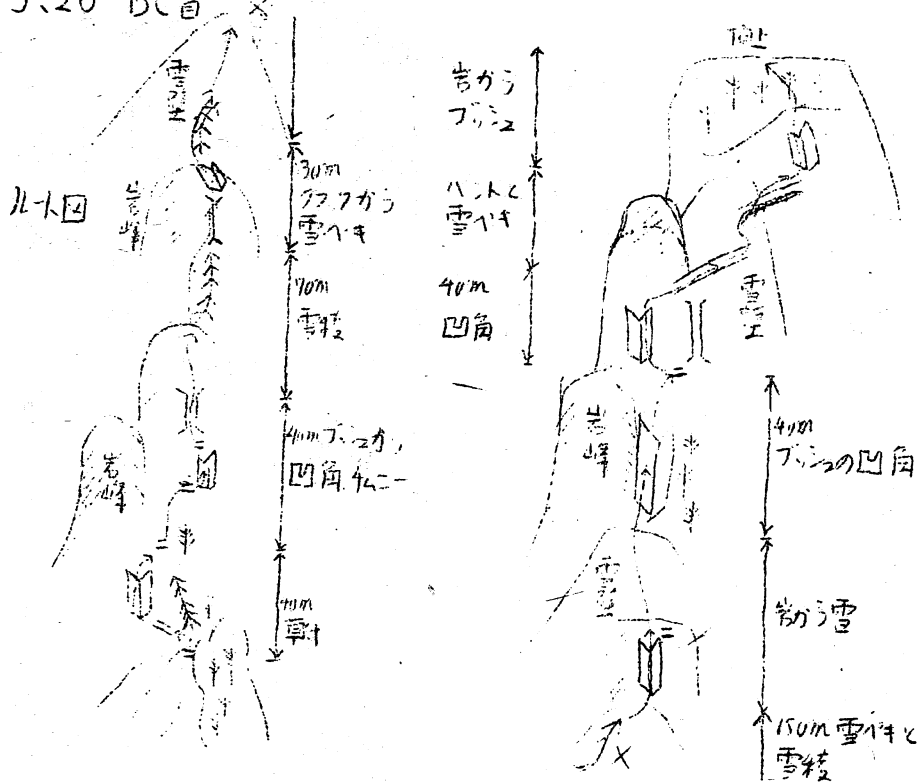
4P目 Top (F) クラックを強引に登り急な雪壁から雪積

5P目 Top (山) ナイフリックを雪壁の基部まで

6P目 Top (山) こててアセンをつけて急な雪壁を登り

7P目 Top (F) 雪壁を登り滑るとかみ雪積 岩の基部へ

8P目Top(F)アブリを使用して雪杖  
 9P目Top(F)ブリッジ帯と腕力で登り大岩峰の下へ  
 10P目Top(山)左ニー右側の凹角を削り上げて通り ~~雪杖~~  
 2.手で雪杖と雪壁と草付きハドを80m  
 3:30 11P目Top(山)管をアブリ2回使用しあとは草付と登り終了  
 Allにて2/100のスピード(登り)で下りあとはろくにくだり帰った  
 5:20 BC(音)



感想 おれろかた(山本)  
 ホクモウタメ(二俣)  
 たかながおれろかた(下田)

5月5日 沈 竹内下山  
 3年生以上だけの合宿となる!



5月6日 ○

○ 山峰東壁下部三角形岩壁独標ルートパーレー 山本 飯田 中嶋

5:55 BC 麓、唐松ノからX標(右)のルートを登る。

9:30 取付 1P目 Top 評田 左上打グスクスのバド、1P目からシャークタイム

2P目 Top 中嶋 スーを右へトバースして大きなテラス

3... 左へトバースして凹角をアキで登り、草付のバドから、スラフを右へトバースし、か木下のスラフへ。この辺りの崖に等身大の石をあてず。

4P目 Top (中) 凹角を直上し、左へトバースした後、右上して楕円形大きなテラスへ

5P目 Top 山本 スラフの左上打凹角から草付、台地状のテラスへ、最悪、アキを2回つがった。ここでまずとシャークタイム

6P目 Top (飯) 草付のフジ

7P目 Top (中) 〃

フジ50mして

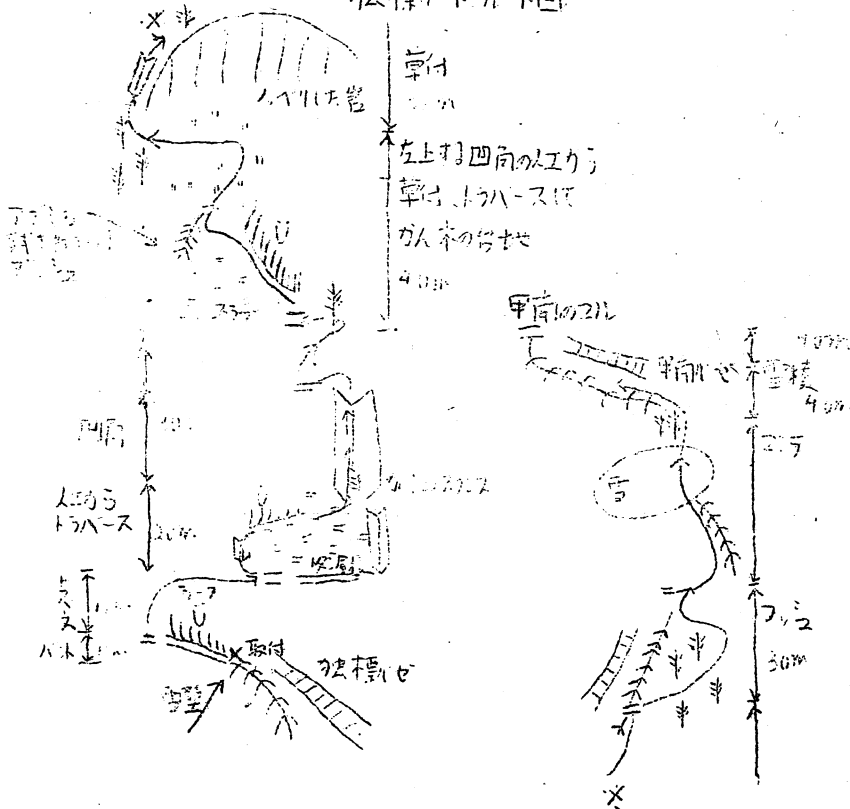
8P目 Top (中) 雪稜

9... 甲南のツルへ終了

15:00 終了 甲南のツルから甲南にせ下降し、BCへ

16:00 BC 着

独標ルートルート図



○I峰尾根左枝パーティー L土田 下田

5:55 BC発

唐松沢から右へなく雪壁を登り濡れた車はと登りクワサの雪枝と登りJPCに出た。そこで右枝パーティーと1時間お話ししてひれを切りして、登りI峰の下をトバースにてI峰間川にせに出る。唐松沢の  
出発で30分まで帰る。おてーサイ

3:30 BC着

○I峰尾根右枝パーティー L二俣 眞田

6:00 BC発

8:00 不帰沢から断壁のZ川へのルセの出発

8:30 Z川にてアサイ

1P目 Top 眞田、ガウガウの岩 階段状

2... Top 二俣 雪枝 以後ついでまで

3P目 断壁の核心 凹角から浮る岩枝

4... } フジ丸の雪壁

8P目 雪枝 左枝のJPCに出てZ川頂上下のZへ

9P目 40mのはしてとておす / 10P目 10mでI峰(7)の近くへ出る

13:30 終了

14:00 ビック発

不帰沢下降、I峰間川にて雪崩があったため!

15:45 BC着

5月17日 ◎ 晴れ小雨

往路を白馬へ下山、そのまゝ全員で松本へ行き、新飯ツツハにみた。

新飯ツツハと松本新飯にみた!

夏山縦走合宿 南アルプス 甲斐駒ヶ岳～光～大無間  
7/15～7/28

=メンバー=

↳ 箕田, 竹内, 山田, 吉野, 藤田, 土田(三伏峠まで)

7/15 松本 ~~伊那市~~

2052 2240  
入山祝に、部屋でスイカを食べて出発、今夜は伊那のバスターミナルで  
ゴロ寝 2300頃就寝

7/16 ○ バスターミナル — 入舟 <sup>N3</sup> 戸台 — 白岩 <sup>2P</sup> 赤河原 <sup>2P</sup> 大平小屋

605 615, 623 730, 805 845, 908 1050, 1115 1310, 1335  
— 北沢峠 — 北沢長衛小屋

1402 1450 1455  
白岩あたりまでは 照りつける太陽の中 河原を歩く。暑い。ここからは  
樹林帯。ハ丁坂は実にっらっらが 鍾乳が楽しい。大平小屋で林道にのった  
時は実にいい感じ。まもなく北沢峠に着く。天場代から逃げようと 少し離  
れて設営。

7/17 ◎ B.C — 仙水峠 — 甲斐駒ヶ岳 — (北沢峠) — B.C

540 605 730, 745 950  
起床時はまだ降ってなかったが、出発と同時に降り出す。雨の中を山を登  
る。風上では雨もやんで若干長望がきいた。しかし寒いのですぐ下る。帰りは  
北沢峠をまわって下り。そのあと停帯。河原で広き火。

7/18 ◎ T.C — 小仙丈岳 — 仙丈岳 <sup>2P</sup> 高望池 — 横川岳 —

455 649 855 1150 1316

1425  
北沢峠に向かう途中、かもしかに出会う。全然逃げようしない。北沢峠か  
らは樹林帯の急登。2700mで樹林帯も終り、仙丈カールが大きく見える。展  
望もかなりきいて中央アルプスなども見える。仙丈からの樹林帯はミサがいろ  
しい。湿り気のためところどころ。高望池、信州側のカ下木は水場。野モリ越は  
倒木がやたらと多く笑っちゃった。両俣では小屋を利用。感じのいい小  
屋だ。夕刻スコールが来る。

7/19 ◎ 両俣小屋 <sup>3P</sup> 2841mp — 北岳 <sup>3P</sup> 間ノ岳

445 805 845 1000, 1035 1300  
野呂川沿いの道はわかりにくく、1度まちがえてしまう。大滝手前からはも  
のすごく急登。手をついて登る。途中 カモシカがものすごく多いのでかけあ  
りてくる。一目ぼけ。2840mpでやっと樹林帯をわけだし、展望がきく。  
しかし 北岳は眼前に大きくそびえている。その登りを見たら全くいせになつ  
た。それから70分、実に苦しい岩稜の登り。北岳についたらとぞは本当にうれし  
かった。間ノ岳で木場を探す。雪深はあるが木はなくていい。結局 雪をシ  
ンカすこととして3000mの稜線に設営。

7/20 ◎ B.C. <sup>2P</sup> 農鳥岳 <sup>2P</sup> B.C. <sup>3P</sup> 熊平 <sup>3P</sup> 北荒川岳

440 610 625 805, 905 1000, 1015 1320  
 朝、富士山が見えない。間ノ岳からは、前にそびえる農鳥岳を見ながらの急な下り。西農鳥岳で塩見が大きい。ここからは意外に岩峰が連なりつつい。農鳥岳からは荒川岳、赤石岳、免岳、そして新平の山々が遠くまで連なっている。今日は熊の平まで下ったけれど、北荒川まで行くことにする。間ノ岳のB.C.を撤収のあと、熊の平まで下ると西の樹林帯の粗大なる道。新平岳の岩峰をすき、北荒川のガレ場をトラバースすると、お花畑の中の感じのいい天場。木は静かな間に3分下る。明日は三伏峠までしよめ、今夜は土田さん最後の夜なのだからのむ。

7/21 ◎ 北荒川岳 <sup>2P</sup> 塩見岳 <sup>2P</sup> 本谷山 <sup>3P</sup> 三伏峠

600 735 750 958 1055  
 何かマツと夏らしくなってきた。塩見岳ではすっかり晴れて展望が美しい。塩見岳より三伏峠までは樹林帯の単調な下り。三伏峠には下田さんがいるところから、木々がボツボツで1300m頃まで不毛の地。土田さんは1000mで下山。下田さん帰ってきて、ボールのオシ入れ。それに天場代もOKにしてもらう。のんびりした1日だった。

7/22 ◎ 三伏峠 <sup>3P</sup> 高山裏 <sup>2P</sup> 荒川前岳・中岳のコU <sup>3P</sup> 悪沢岳

435 725 940 1050  
 コU <sup>3P</sup> 大聖寺平 <sup>2P</sup>  
 1150 1250  
 昨夜、今夜の朝食のマツツニポテトを夜食にたべてしまったので、コーヒーのみで出発。素晴らしい天気だ。富士山が美しい。やたらワンフルパーティが丸、ごぼう抜き。高山裏からは樹林帯の中、トラバースの後、急登。むしろ暑く汗ばらだら。2700m付近よりガレ場で樹林限界。しかし澄りであった。悪沢岳からの展望は、うまでもなく大無間、小無間をばるかに確認する。ふり返れば、甲斐駒から更に長い稜線。そして前方にははるか連なる山々。まだまだである。大聖寺平は、沢の方に木場を求めて下ると、インカの遺跡的な石楯が、そこかしこ木がくんと崩き出ている。その中、~~木~~にテントを張る。静かで、ガスが流れ、何ともいいぬすらしい雰囲気だ。

7/23 ◎ 大聖寺平 <sup>3P</sup> 赤石岳 <sup>3P</sup> 石間洞 <sup>3P</sup> 大沢岳 <sup>2P</sup>

530 720, 735 835 940  
 小免・免のU  
 1125  
 今朝もコーヒーのみで出発。すく赤石岳の急登。赤石岳からは石間洞へ一気に下る。きかない天場だ。再び大沢岳のガレの急登。一回、昨日の疲れと暑さで、すっかりまいってしまふ。小免・免のUに木場を見つけ、そこで設営。木場は、東に2分下って得た。1400m頃よりスコール。しかし夜半の星空は、すばらしいから。

7/24 ◎ 小免・免のU <sup>3P</sup> 免岳 <sup>2P</sup> 聖岳 <sup>2P</sup> 聖平 <sup>2P</sup>

440 515 700 746 845 900  
 上河内岳 <sup>2P</sup> 仁田地  
 1035, 1115 1230

尾根は細く岩はかり注意して下る。尾・聖のCOLの天場は  
 タケカンバの間は小さな堅地跡が2,3あるが6人用テントは無理。聖岳  
 登高中 光岳が 谷をはさんで 間近に見え 信濃保もイザルが岳と 易老岳  
 の間にその独特の空気を感している。聖岳は最後のツヤイアメント。今までの  
 縦走路が一望。大無間、小無間が本岳に近くな。真聖岳も往復する。  
 聖岳へは 砂小まのいせな下りのあと アグミのチクチクする下り。そして最  
 後 ニツコウキスケの群落をぬけて到着。日が照って暑。上河内岳への  
 準備な登りにけすかりずいってしまふ。でも 頂上から畑畑畑を見、そして  
 一服 雲間からサリ湖も見む時はなんといいぬ感じ。仁田池の小屋は 床  
 もなく すき間だらけ。でもなんとか使えよう。水場は小屋より5分下。と  
 ころ。

7/25 ◎ 仁田池小屋 <sup>3P</sup> 光岳 ——— 最底COL (信濃保カ天場)

425 740, 835 1000  
 易老を越えて光までには 枯木が少く タツツエがひくかり実によくきくくい  
 最後 少し急な登りを登り切ると けつとくらげの光岳直下の木花畑。光岳小  
 屋の前で 信濃保 大無間をみながら木下で。いい天気だ。光岳は 縦走路から  
 クレシはなれて往復。頂上は林の中で 展望ゼロ。やたらフットはかり目につ  
 く。あまり感じのよい頂上は。いよいよ刻々北西へ向かって下る。直は  
 筆外よい。最底COLより木にみに西側斜面を150m程下る。合いせにな  
 る。つらい仕事だ。聖田さん 山田はもう一度下て来(み)に行(こ)いた。天場  
 はCOLより少し登ったところ。樹林帯の中 実にいい感じ。フライのみ設置  
 したまの回りでゴロ寝する。

7/26 ◎ T.C ——— 信濃保 ——— 榎沢山 <sup>2P</sup> 大根沢山

440 520 535 1030  
 榎山にはなんと 大無間、小無間の立派な標識。一同拍子抜けで  
 も心もいかにぬつちい 道は清い。うさぎだらけの森林の中 コケ玉の倒木  
 下。その中に赤い布 ムキを見いだし下っていく。実にすさまじい下りだ  
 った。しかし1913mp手前から 踏み跡があらわれ、ときどき水たまり  
 まで水をたどって 別にマイスイ進む。大根沢山は 昨夜の信濃保  
 同様 落葉のたいせきした心持よいところ。フライのみ張る。さて間道は  
 水場。北西にむかひ じんじん下る。往復1時間。真につらい仕事だ。聖  
 田さんと 山田は 今日もう一度下て 来(み)に行(こ)いた。感謝。その  
 あとは 林がせかす。夜半より すこい雷 皆一発で見えさる。か  
 なり近かった。

7/27 ◎ 大根沢山 <sup>2P</sup> 三陽池 ——— 大無間山

600 800 1220  
 踏みおといは とぎれとぎれ打がらも残っている。尾根の続いている方向を  
 たよりに道をとる。三方峠より道は とぎれることもなし なんとすこなつた。  
 三陽池は 藜がけひみり 池いっつより 泥沼といひつんじ。小屋は完  
 全に倒壊。水場をさがして下るが なかなかみつかない。ガイドブ  
 ックに従ってCOLまでいくと 困り立れと共に 1時間とも読める立マ礼。  
 下っていくと赤印等もつらいて一匹 道ができている。25分位下てついに  
 発見。しかしCOLまでもどろともうハトハトだつた。COLからは 急登が100  
 似程。そして 急な登りが 倒木はかりで かつあまよころに再び  
 注意。それを登り切ると 急に 祖堂がだらけ。そこが 大無間山 頂上。  
 案にうれしかった。頂上には 国土地理院の ヤクラと 天水による 飲料水が  
 あつた。ヤグラのほつ 360°の 展望を楽しむ。遠く 雷が 鳴っている。  
 そのたひ はっぱと 光つてまるで 花火大会だ。今日も フライ だらけする。

7/28 ① 大無間山 ——— 小無間山 ——— 釜歯 ——— 2P 田代

起床後、マアラクのぼり南アルプス縦走の最後の朝をかみしめる。糸・聖がかすみ、茶目、光の接線はなごらぬ。信濃保、大根沢山のピークもなつかしい。のんびりした朝だ。はじめは森林の中の平井な道。小無間山手前で小ピークが続き、やうい。小無間山は展望は全くなく。光同様アレートが目につく。釜歯は小ピークが連なっているだけ。若干のブツニの中30m~40mの登下降です。電波塔。立派な小屋がある。そこから途すき月が見えはじめ。セッカー、林の中のムシムシする鬼オの中を、一気に下り切る。田代のバス停の前とひたし皆、ザックを投げ捨て、湖とひたむ。実にむかし。思っ分泳ぐ。最高の気分だ。ビールで乾杯し、1340のバスで青野へ入る。

(感想)

まあオー、全行程を歩き通せることを一番うれしく思っています。1日1日の行程は本当につらかったけれど、あの辛さやかな雰囲気の中で歩ける。ということは本当に良かったと思っています。特に後半、信濃保、大根沢山、大無間山での天幕生活は実に宝田地的で、印象の深いものとなっています。また最後に、田代バス停の前とひたし下り下るというのも、すばらしい海老で、井リがいて、注いだことがこの旅後の充実感をますます深めてくれました。最後に、13日間の旅で、本当にいろいろなことが身につけて、私にとってとても貴重な旅でした。

1977年度

夏山合宿 8月20日 ~ 8月29日

<場所> 剣岳・熊の岩

<メンバー>

山 山本章(教Ⅱ) 土田章(織Ⅱ)

箕田俊晴(織Ⅱ) 竹内秀美(工Ⅱ)

山田 誠二(織Ⅰ) 吉野

藤田

○<合宿を終えて>

前半はとまかく、後半は雨にたたられ、あまり動かしあがる  
ことができなかった。西面も入る事が出来ず上級生には  
不満だったかもしれない。確かに高度な登攀は出来  
なかったが、合宿という物の第1の目的、すなわち登山  
に対する基本的な事はけこうできたのでは無いだろうか？  
一年生に関しては「岩登りの基礎」という事はたいい  
やしてもらったと思う。どなたに高度な登攀を習得も  
基本というものがしっかりとつけられは、「そのうちかならず」  
いたる目にあうだろう。無論我々まだ危ない所も多々  
あるが、今合宿で教わった事を土台としてよりきびしく  
自己もきたえてほしい。

ただ連日の不安定な天気でも体的に毎日が「楽なもの」  
となってしまう、その点が不幸である。もうすぐ冬山、  
全員が冬山に向けて、自らもきたえよう行く事を  
共に望む。

(山本)

〈旅行重打記録〉

第1日目 (8月20日) ①

・ 町屋(5:55)⇒ 鹿沢 ⇒ 7A出口(7:45) ⇒ 内蔵/助平(11:50)

途中竹内のサツワのひきか切れ修理する。

(たいてい110kgも荷物が重く、暑かった。里部のスケール) 山田  
の大きさは驚く。明日の行程の見直しがある

第2日目 (21日) ① → ②

T.S(6:37) ⇒ 11.5段乗越(8:35) ⇒ 真砂沢(11:05) ⇒ 長瀬郎谷出合

(12:15) ⇒ 熊の岩B.C(14:50~16:30)

また竹内のサツワが二本修理不能 箕田とサツワを交換する。

長瀬郎谷の登りでは竹内が1本足りないので、大きき差がでた。

今年は何年よりかなり雪が少なくなっている。

(2年ぶりです)

第3日目 (22日) ① → ② → ③

・ 全員で源治郎尾根。途中2峰平蔵谷側7-スモ3パーテで登り

丁真上から長次郎の左俣を降りる。2回ほどストックの訓練をして

B.Cへ。その後 箕田、竹内でA7-スモ 直高ルート登攀

~~尾~~ B.C(5:50) - 尾根取付(6:40) - 一峰(8:30) - 2峰7-スモ取付(9:40)

2峰(10:35~11:30) - 剣本峰(12:45) - B.C(14:15)

(左俣のカツセキは新人合宿以来で雪もたたく、スピードが出て) 藤田  
11:40にた。

〈源治郎尾根2峰平蔵谷側B7-スモルート〉

L.山本、藤田 9:40~10:30 2P.半

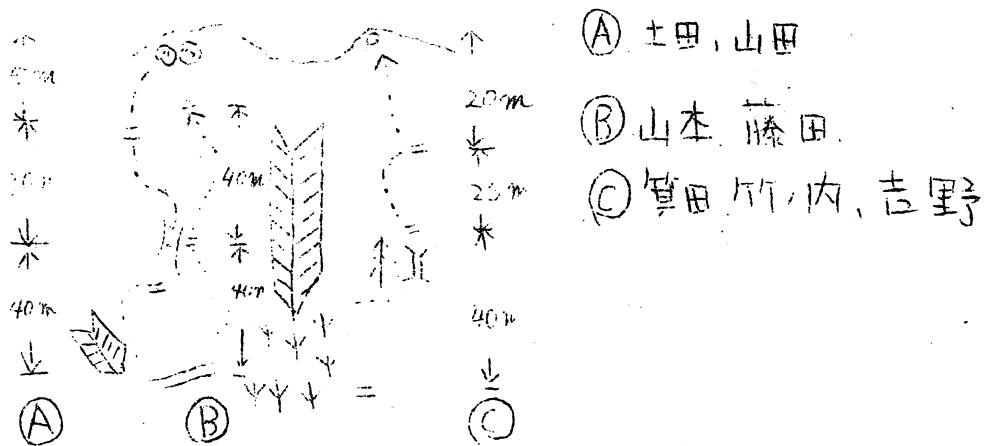
L.土田、山田 9:40~10:35 2P.半

ルートがよく整備されていないので、2パーテ、10m程はなれてすきな所を登る。



<Cフェースルート>

△ 箕田, 竹内, 吉野 9:40 ~ 11:30 3P



○ Bフェースは岩もたたくフリクションもよく効く, 新人を連れて行くには良い所だと思われる。

<▲ハツ峰6峰Aフェース魚津高ルート>

△ 箕田, 竹内 14:15 ~ 15:15

(全て初めてTOPをやめたことのうれしさ) 竹内  
なかなか快適でした

登攀後, 5, 6の工ルからB, CへXルート図略

第4日目 (23日) ①

全員でハツ峰を1, 2間にせから縦走, 長次郎乗越から本峰北壁へ行く3パーティでL1~L3も登り左俣からB, Cへ

B, C (5:30) → 1, 2の工ル (6:40) → 5, 6の工ル (8:55) → 6峰 (9:10)

→ 池ノ谷乗越 (11:10) - 長次郎乗越 (11:40) → 北壁取付 (12:30)

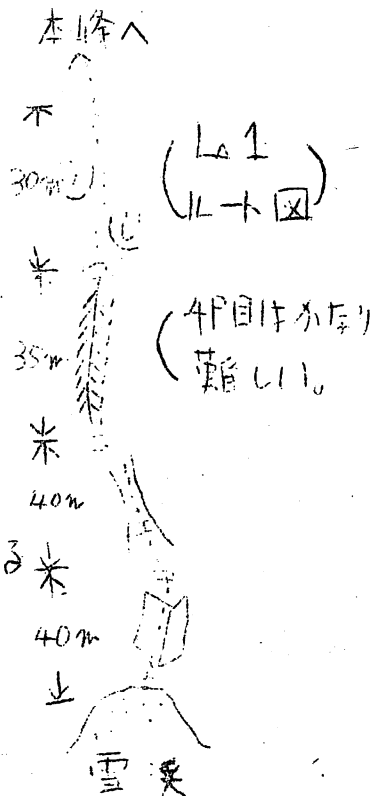
下半で1回, 上半で1回のアアザイレン

上半は絞通いに行く,

<本峰北壁 L1> L 土田, 竹内, 藤田

(13:00 ~ 15:40)

- 1P目 凹角を川にも311岩を登る
- 2P目 快適なリッジ
- 3P目 ルンゼ状
- 4P目 ハンクさみの所 岩はいろいろ
- 5P目 ヤサしい。(コンテ)

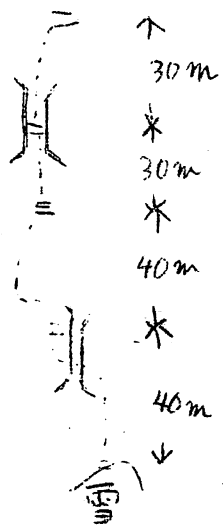


<同 L2> L 眞田, 山田

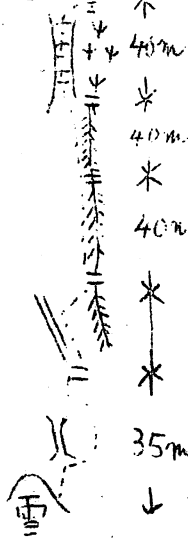
13:00 ~ 13:50

- 1P目 L2左の支稜より取り付き 44ニ-を越える
- 2P目 左からも311フェースを登る。
- 3P目 も311フェースから44ニ-
- 4P目 44ニ-をバックandニ-で登り  
フェースを登って終了  
後はコンテで山頂へ (14:05)

(L2)



(L3)



<同 L3>

L 山本, 吉野

- 1P目 かなり難しいフェース
- 2P目 快適なリッジ
- 3P目 も311 リッジ
- 4P目 非常にも311リッジ

13:00 ~ 14:35

(1P目 恐くてアブミ使っちゃった。)  
まいったなもう。

山本

第5日目(24日) ◎ → ● → ◎

六峰フェースから午の内に行く予定だったが、この日から天気が悪くなり六峰フェースだけの登攀となる。結局この日からの悪天が最後まで続いてしまった。

B、C (5:55) - 取付 (6:05) - (10:30までに六峰フェースを各自2回登る)  
→ 大井パークレーンル (11:35) - B、C (11:50)

◎ <Aフェース魚高ルート> L<sub>0</sub> 土田 山田 6:20 ~ 8:00

<同> L<sub>Δ</sub> 竹内、藤田 6:30 ~ 7:50

※(ルート図略)

<Aフェース中大ルート> L<sub>Δ</sub> 山本 箕田 吉野

1P目、四角フラックを登り出川の石小スタンスより5m程下で切り

2P目、直と後右ストラスし物の岩上へ登り大きなテラス

3P目、コンテ

(ピッチグレードが重くあり、必死に岩にしがみついた。) 吉野  
あせたため「ホド」を手に取ることをできなかった

(中大ルートは3回目ですが、来たたびに難度が上がる様です  
でも短くてスツキルもあり、クワダマシにはなってますね。) 山本

◎ 登攀終了後Aフェースの下に全員集まりパーティを組ませ、  
再び六峰フェースを登る。

<Cフェース剣綾会ルート> L<sub>Δ</sub> 竹内、山田 8:30 ~ 10:30

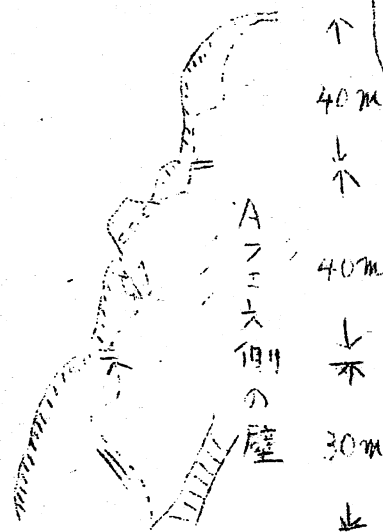
<Dフェース富山大ルート> L<sub>Δ</sub> 箕田 土田

<Bフェース> L<sub>Δ</sub> 山本、吉野、藤田 8:20 ~ 10:20

(小雨がパラッきりやだだったが、ルート自体は  
思ったより快適だった)

B7フェース、ルート図

\* CとDは日本の岩場と見て下さいね  
 ホビーサーが、一年の人は、サーと書ける  
 様になつて下さい。友人より良いルート図は  
 おせしにも言えませんでしたよ。



かた川快速

セリ草の付た  
フェース

◎ 各パーティ登攀後のフェース  
 の頭には集合しハツ峰上半の  
 巻道を池の谷東越まで行くが  
 雨がひどくなつて来たので  
 B.Cへ右保から下降する。

第6日目(25日) ◎→◎

今日も六峰フェースから4ヶ所、そして平蔵谷まで回るつもりだったが  
 雨のため六峰フェースだけとなる。

定着山行といふものは、たゞにB.Cに降りたので気が乗ったが、その分  
 精神的にキツイ来たので、どこで行動を打ち切るか悩む頭がいた。

<Cフェース制縦会ルート> 土田、吉野、藤田、〇ルート図田各

B.C(5:55) - 取付(6:15) - 終り(7:45) - B.C(9:30)

\* Cフェース登攀後 Dフェースの頭まで行き他パーティ<sup>手</sup>が雨か  
 ひどくなり 5,6の工ルからB.Cへと下降する。

連日Cフェースには11月11人が群らかたて11時すぎ  
 \* 二人三人の多ハ所を登らなくても、楽しく岩登りの危  
 強に存る所、他に11月11あります。熊の岩後の  
 の壁もそうです。みんさん11月11壁をさが  
 して11月11存せりかたて登りましょう。④

<D7E-ス富山大ルート> △山本, ■山田

B.C (5:50) - 取付 (6:40) - 終予 (8:05) - B.C (9:30)

(途中からかなり雨足が強くなり寒いほどでしたが快適な4,5Pの登攀でした。

○ルート図略

<D7E-ス久留米大ルート> △箕田, 竹内

取付 (6:30) - 終予 (9:30) - B.C (10:10)

小雨IPラック中での登攀であったので、フリクションがきかずビビッた。IP目は箕田は左から登ったが私は直ぐにアブミをつかいて越えた。特にものすごかったのは3P目のオーバーハングであった。B.Cにもどりに登ったあたりを見ると失神しようであった。

記 竹内

第7日目 (26日) ◎ → ●

今日は前から気になっていた熊の岩の天端後3にある壁に3IP-テイクで向かう。そこから4-ネへ行き本峰-平蔵谷と行く予定だったが時間を予想外にかかり4-ネ登攀後

長次郎の右俣からB.Cへもどる

取付 (6:05) - (3IP-テイク集合の登攀終予) (8:35 ~ 9:15)

→ ミノ窓 (10:25) - 4-ネ (12:50 ~ 14:35) - B.C (15:15)  
の三兵衛

<熊の岩, 後3の岩稜>

A パーティ, △山本, 藤田, (6:05 ~ 8:35)

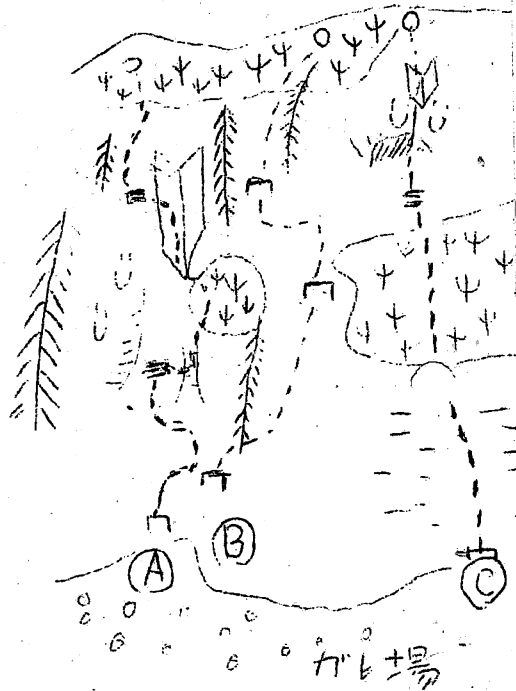
1P目, レックしたフェースを登る。途中少しおろきみの戸所を登る (40m)

2P目 ビレポイントから右にトラバースし、はし松帯から凹角を登る (40m)

3P目 きもちの良ハフェースからハイ松帯に入て終予。(40m)

Bパーティ. 土田, 吉野 (6:00)  
 1日目, Aパーティとほぼ同じ所から  
 2日目, ハイ松帯をぬけカブリカみの  
 3日目, カンテからバンク上のフェース

Cパーティ. 土竹内, 箕田, 山田  
 1日目, スラフ, ニホハホルドの所  
 2日目, ハイ松帯を苦勞して  
 3日目, 2ヶ所のバンクを登り  
 4日目, やさしいフェース (15)



(ルート図)

○上の台地(テラスも張れそうである)に全員重なり矢張り  
 12の岩峰が並ぶがニおけコにて登り雪渓、岩稜と  
 30分を登ると長次郎の池と池谷の池とが間の稜線にいた。  
 池谷カリーから三ノ尖へ行き3パーティで4コを登る。

<中央4△ニ～Qバネ, ヒクラツク>

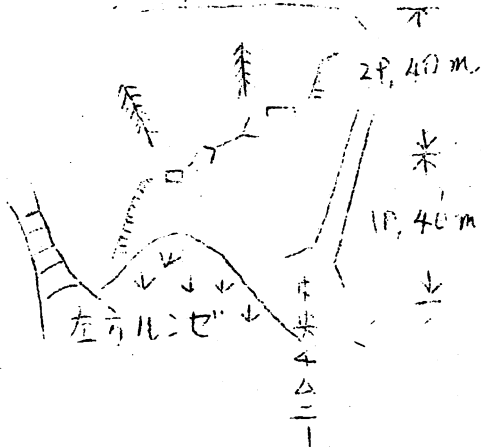
山田, 山田, 藤田 (10:45 ~ 13:15)

(ルート図略)

<集豊ルート～94△ニ, ヒクラツク>

山田, 吉野 (10:45 ~ 12:50)

中央バンド (上三バネルート図各)



1P目, リンパからバンド  
 有木がバネスが必要

2P目 クラツク, 系洞はバンド状  
 の所をほうほうにして登る  
 如左2P2Eいせうし。

<左下カニテ, 全部集豊ルート> 山本, 竹内

(10:50 ~ 14:35)

○集豊ルート2P目でルートをまちがい左下カニテに出た。

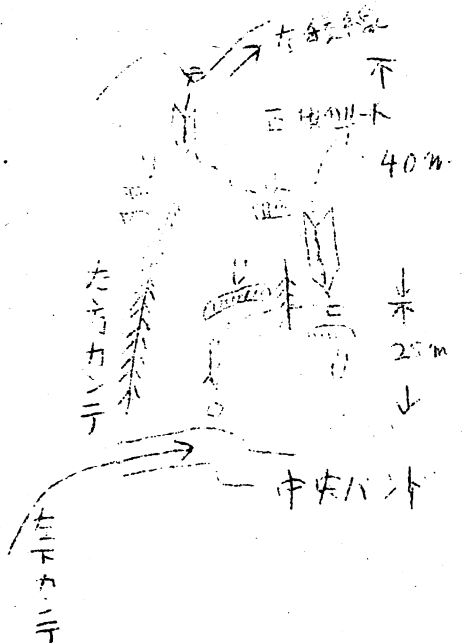
1P～3P, 左下カニテ (日本の岩場のルート通り)

コ行で左下カニテの右側下まで行きフェースに取り付け

4P目 フェースを右上しハツクの下を右にトラバース カニテをこえて  
 小さなスタンスでヒレー(25m)

5P日 凹角を人工で登りテラスに出る 右から左上折と左カニテ  
上部に出、しばし登ると左稜線に出る(40m)

6~7P 左稜線を登る。



\* 途中のルートをまたがったが、  
全体にはたまたまルートだった、  
砂登り(1-1)と24、14、15

左カニテが深い 登らねばならぬ木だ。  
ⅣA1程度  
の光登り。

② 4:30の翌日(14)の2ハートと合流  
し長次郎右俣からB.Cへ

第8日目(27日) ① - ② - ③

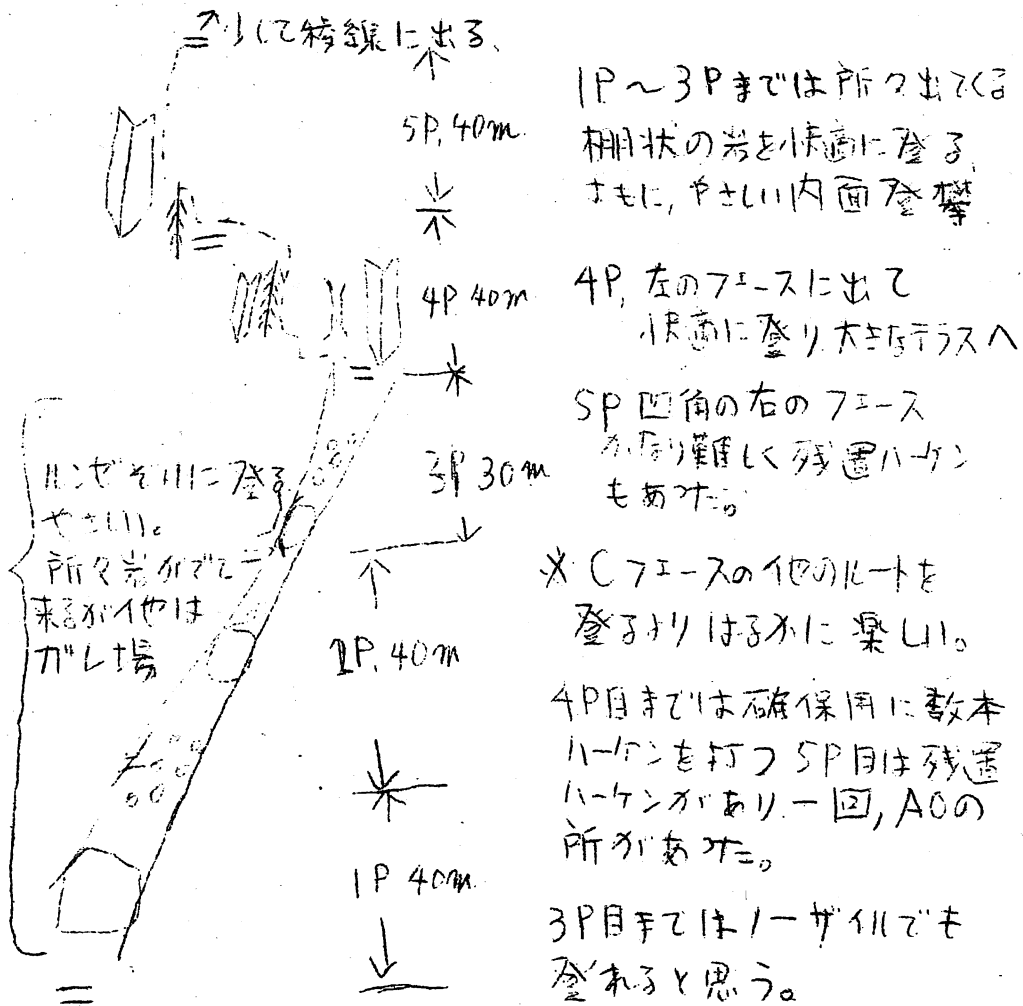
- 山本、實田はハツ山峰長次郎側の谷フェース  
他の者は真砂に降りて池ノ平の右から北方稜線を  
池ノ谷乗越まで、ここで全員集合し雨まふて来たので  
右俣をB.Cへ。その後、雪と言訓練
- 山内、土田、山田、吉野、藤田、  
B.C(5:50) - 真砂沢小屋(6:30) - 平バヤ(8:05 ~ 8:50)  
- 小窓(9:45) - 三ノ窓(10:55) - 池ノ谷乗越(11:30  
~ 11:45) - B.C(12:30)
- 池ノ平山山頂へは行かず、トラバース道を行く。  
三ノ窓で本格的に雨が降りだし、大部ぬれ  
てしまった。晴れたらおもしろいので、4:30、ハツ山峰  
のスパラシサも味あえす、ガツガツする。



<箕田, 山本, パーティ>

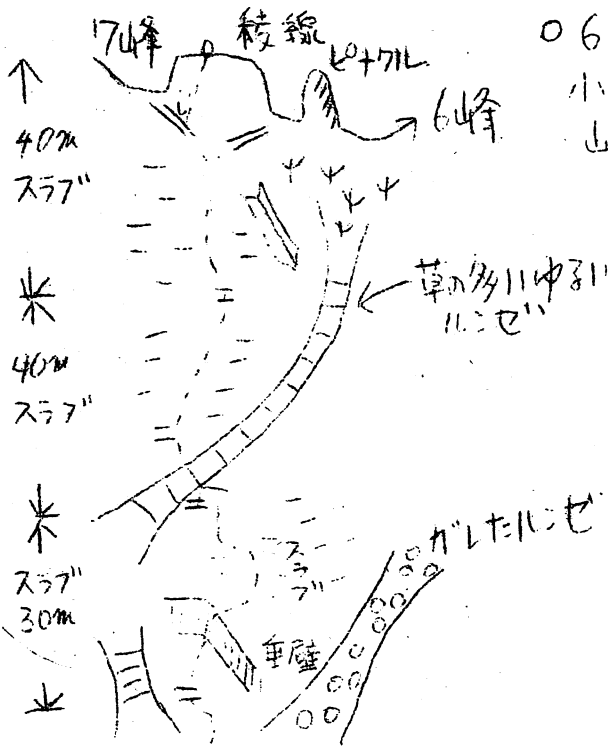
○日本の岩場に717という所を、(思.) CフェースのBフェースとの  
 凹角、七峰、そして八峰の長次郎側フェースを登った。  
 技術的には易しかつたが、自分でハーケンを打ち、ルートを  
 見ながら登る事は実に楽しいものである。

1) (Cフェース, Bフェース間ルンゼ) > 6:40 ~ 7:50,



2) <7峰フェース>

8:30 ~ 9:20



○ 6峰と7峰の間のルンセに登り  
小垂壁の下でアザイルン、  
山本TOPで登攀開始、

1P目 スラブから小垂壁を越し  
きれいなスラブに出る。見  
難い岩だが、実はヤシク  
小垂壁のスラブを登り一段上の  
小ルンセの下に出る。

2P目 裏にスラッシュスラブ  
ニキが有ホールド、スタスを  
利用してラスキで登る。  
ニキはどのようにも登れる。

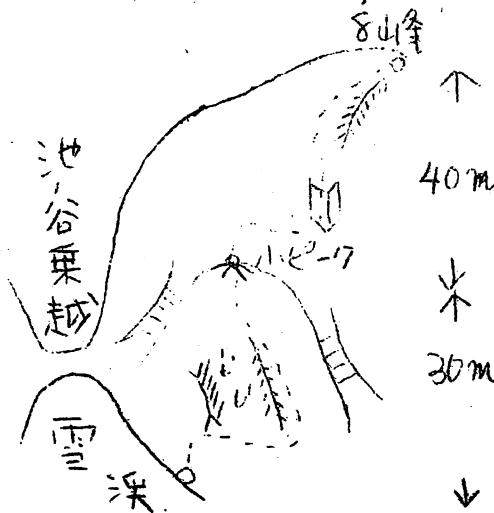
3P目 同じようなスラブ  
40m 縦走路に出る

○ 裏に良いルンセで一年と来るのに登り易い  
たが、III級程度で、浮石など全くない。



3) <8峰フェース>

10:40 ~ 11:30



1P目、打作ハーケンを利用して  
強引に一段上り、難しい  
トラバースからフェースを登る、

2P目 雨が降ってきたので右下に  
トラバースした後やさしい所を  
登る。

30m ◎ 何かおリやり登った様なルンセ  
で、おもしろい所ではない、おもしろ  
しているが、ケレンテのようで、ハーケン打ち  
の練習に行きやすい。

- 全員で B、C にもどった後、左保で 13:30 ~ 14:30 まで、(スタコット、ストップ)の雪上細言訓練、  
11 時人やんでいた雨がまた降り出しビシニぬれになる。

## 第9日目、(28日) ① → ②

B、C での最後の日だが、天気は如何あらず"である。  
六峰フェースから4:30の予定だったが三ノ窓に着いた  
とたんに雨が降り出ししばらくまていたが、やみそうに  
なるので、B、C へもどる。

< Bフェース > L 箕田, 土田, 山田

(6:40 ~ 8:25)

< Dフェース富山大 > L 山本, 藤田

(6:40 ~ 8:10)

< 同ルート > L 竹内, 吉野

(7:00 ~ 9:50)

Dフェースの頭に集合した後三ノ窓へ向かう。  
三ノ窓で、各パーティ別に13:00まで雨がやむの  
をまつが、全然やみそうにならぬので、B、C へ帰る。

- 伊那, 松本の師田, 加藤が、テントに入る。  
(下の廊下へ行く為)

第10日目、(29日) ② → ①

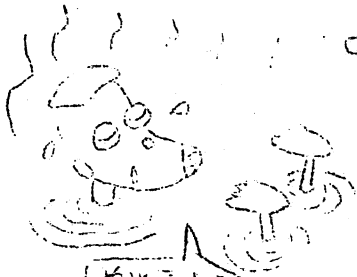
下山、入山した通りにまた黒四ダムへ向かう。

内藤蔵、相ヶ谷出合で、下の廊下へ行く師田、加藤

吉野、山田と本がれ、のりの5人で帰る。

あんなに、ダムへの登りに泣かされた。

(終り)



やと山が  
終つた、つね  
たしーモ一

◎ 全体的に皆ルネ図がハたです。

113113の岩の記号(赤①等)早く

覚えてしまつたルネ図を書ける

様になりましょう。